

乳がん検診



<検査内容>

40歳代	◆マンモグラフィ(乳房X線写真) ◆エコー(乳房超音波検査)
50歳以上	◆マンモグラフィ(乳房X線写真)

平成27年度から市の乳がん検診の実施方法が変わり、「医師による乳房・甲状腺の診察(視触診)」は実施しないことになりました。

マンモグラフィとは



乳房専用のレントゲンのことで、片方ずつ平らにして撮影します。がんなどの異常があると、写真には、「しこり」の影や白い粒(※石灰化)が写ります。圧迫の際に痛みを伴うことがありますが、痛みの感じ方は人によって違います。月経前の1週間を避けると痛みが少ないようです。

エコーとは



乳房にゼリーを塗り、超音波を当てて画像を見る検査で、痛みはありません。一般的に、40歳代までの女性は乳腺が発達しているため、マンモグラフィでは乳腺が白く写り、※石灰化と区別しにくいことがあります。そのため、40歳代の方にはエコー検査も実施します。

※石灰化 : がんなどで細胞が死滅すると、乳管内にカルシウムの成分がたまり、X線写真では白く写ります。白い点々が写っている場合はがんの疑いがあるのでさらに精密検査が必要です。ただし、乳がんは石灰化を伴うことが多くありますが、良性の石灰化ということも多くあります。

<受診方法> 集団検診

集団検診

①裏面日程表で受診する日程を決める

②検診実施会場で検診を受ける

③結果が郵送で届く

約1か月半後に届きます。検査結果を確認してください。

◆「要精密検査」という結果の場合は、必ず医療機関で精密検査を受けてください。

◆結果が異状なかった方も、乳房のしこりや腫れ、乳頭のただれや血液等の分泌物など自覚症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。